

<テーマ一覧>

坊	番号	テーマ名	ページ
現状分析			P.141
22. 農業・農地・農村・食と農の振興	(122)	特定農業振興ゾーンの整備	P.142
	(123)	農地マネジメントの推進	
	(124)	中央卸売市場の再整備	P.147
	(125)	NAFIC教育の充実と周辺の整備	P.143
	(126)	奈良県豊かな食と農の振興条例の制定	P.147
	(127)	食品ロス削減への対応	P.144
23. 畜産・水産業振興	(128)	食肉畜産業の振興・食肉公社の運営	P.145
	(129)	みつえ高原牧場の整備	P.147
	(130)	内水産業の振興	P.146
現状分析			P.150
24. 森林環境管理・林業振興	(131)	新たな森林環境管理制度の構築	P.152
	(132)	森林防災体制の充実	
	(133)	奈良県フォレスター制度の確立、フォレスターアカデミーの設置	
	(134)	奈良の木ブランド戦略	P.151
	(135)	奈良県産材の安定供給及び利用の促進	P.152

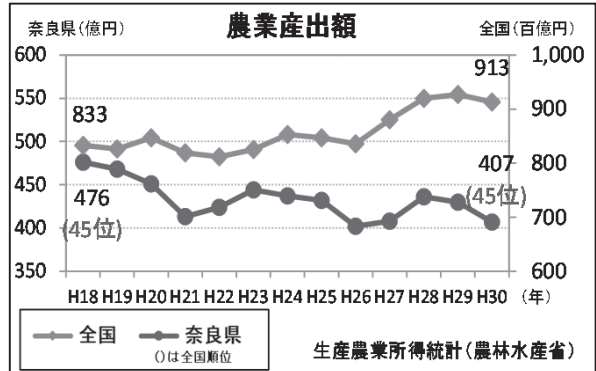
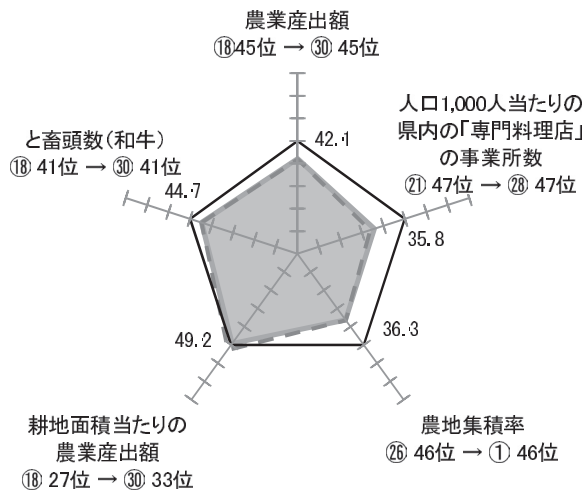
Ⅶ 豊かな「都」をつくる

22. 農業・農地・農村・食と農の振興

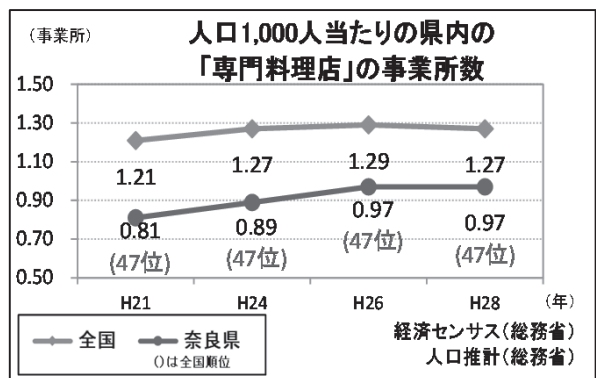
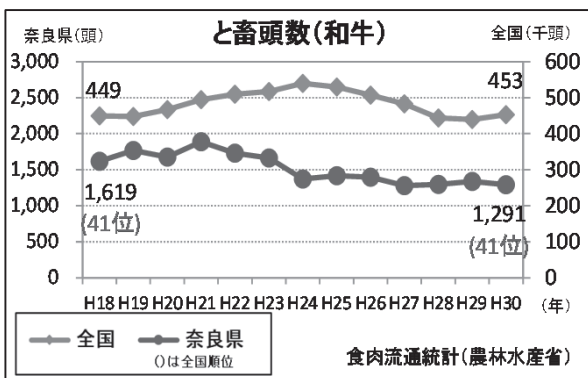
23. 畜産・水産業振興

【担当部局】
食と農の振興部

1. 現状分析

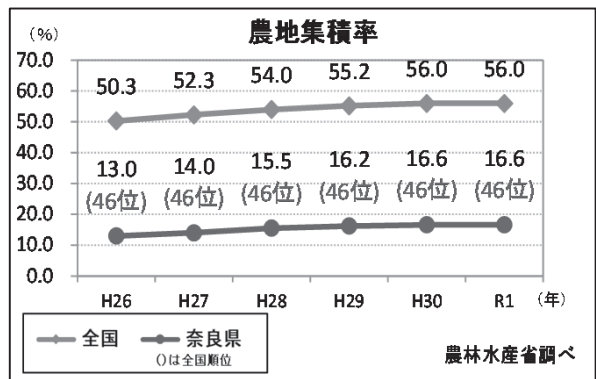
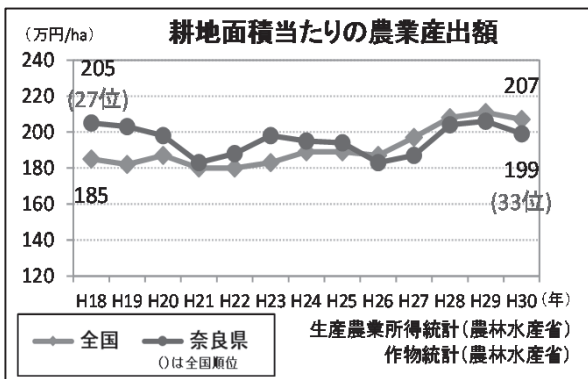


高品質生産への支援等に取り組んでいるものの、近年の台風による収量減少、品質低下等の影響で農業産出額は低下傾向にあります。



牛肉として出荷される和牛のと畜頭数は、畜産業の規模拡大が難しいことから、平成24年以降、横ばいとなっています。

人口1,000人当たりの県内の「専門料理店」の事業所数は、奈良のおいしい「食」づくりとプロモーションの強化等の取組により全国値に近づいています。



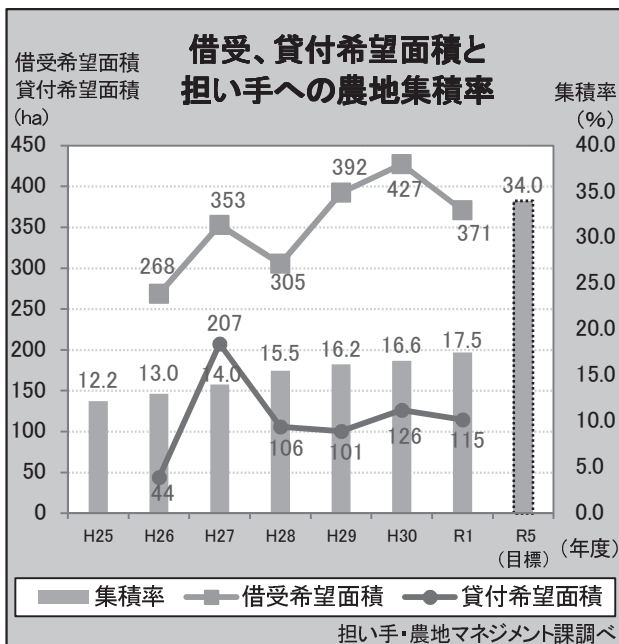
イチゴや柿、小菊等の高収益な作物の振興に取り組んでいるものの、農業産出額が減少していることによりやや低下しています。

大規模農家が少なく小區画水田が多いことから、農地集積率は低いものの、農地中間管理事業等により担い手への集積が徐々に進んでいます。

2. 各テーマの「目指す姿」達成に向けた進捗状況

坊	22. 農業・農地・農村・食と農の振興
テーマ	(122) 特定農業振興ゾーンの整備 (123) 農地マネジメントの推進
目指す姿	令和6年度までに特定農業振興ゾーンの設定を10地区にします。また、令和5年度までに担い手への農地の集積率を34%にします。

CC(チーフコーディネーター)
(122)、(123) 食と農の振興部次長 岡野 正明



特定農業振興ゾーン ^(注) の設定地区[累計](地区) 担い手への農地集積率(%)					
	基準値		実績値	進捗率 (傾向)	目標値
設置地区	6	/			10
	R1 (2019)				R6 (2024)
集積率	12.2	↑	17.5	24.3%	34.0
	H25 (2013)	5.3 ポイント	R1 (2019)	6 10 年目	R5 (2023)
進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> 平成30年度に地元合意の得られた1市3町6地区を特定農業振興ゾーンに設定し、令和元年度はゾーンに関する協定を締結しました。今後も目標に向け市町村と協働し、新たな地区設定を目指します。 農地中間管理事業により集積に取り組み、実績値は5.3ポイント増加しましたが、進捗率は24.3%と伸び悩んでいます。 				

(注) 特定農業振興ゾーン…県内の農地を有効に活用し、農業の生産性の向上を図るために設定する地域で知事が定めるもの。

関連する指標の分析

指標	進捗状況	基準値		実績値	進捗率 (傾向)	目標値
年度別農地中間管理事業のマッチング面積(ha)	令和元年度は、276件(平成30年度209件)の貸付を行った結果91.7haのマッチング面積となりました。件数及び面積ともに増加傾向にあるものの目標の100haには届きませんでした。	29.1	↑	91.7	91.7% ^(注)	100
		H26 (2014)	62.6 ha	R1 (2019)		毎年度
実質化した人・農地プランを作成した集落数[累計](地区)	令和元年度より人・農地プランの実質化に取り組み、35地区の集落においてプランの作成を行いました。	35	/			470
		R1 (2019)				R5 (2023)

(注) 目標値に対する実績値の割合を記載しています。

主な取組指標の動き

特定農業振興ゾーンの整備実施計画の実現		
ゾーン設定地区の農業生産額(百万円)		
254	↑	267
H30 (2018)	5.1 %	R1 (2019)

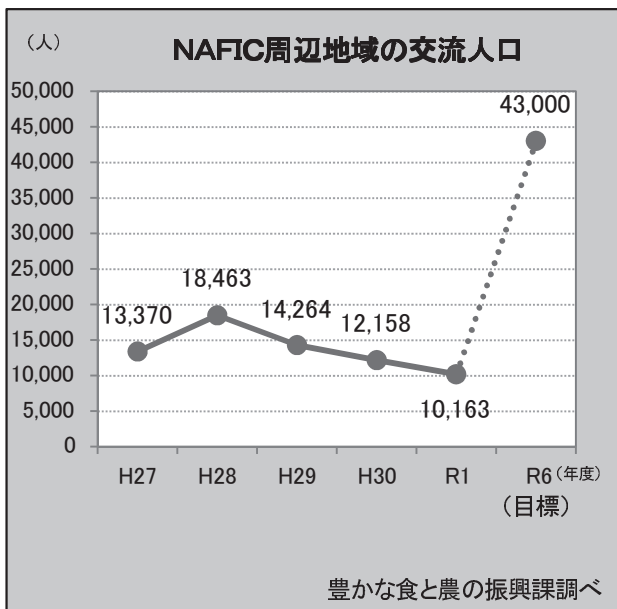
農地マネジメントの推進		
農地中間管理事業によるマッチング件数(件)		
17	↑	276
H26 (2014)	16.2 倍	R1 (2019)

「目指す姿」達成に向けた成果・取組

耕作放棄地の重課制度や非農用地判断マニュアルを制定したことにより、令和元年度において非農用地判断を実施した自治体が6市町村増加しました。

坊	22. 農業・農地・農村・食と農の振興
テーマ	(125) NAFIC教育の充実と周辺の整備
目指す姿	令和6年度までにNAFIC周辺地域の交流人口を43,000人にします。

CC(チーフコーディネーター)
(125) 食と農の振興部次長 原 実



指標	NAFIC ^(注) 周辺地域の交流人口(人)				
	基準値		実績値	進捗率(傾向)	目標値
	13,370		10,163	▲10.8%	43,000
進捗状況	H27(2015)	3,207人	R1(2019)	4/9年目	R6(2024)
	現在のNAFIC周辺地域の交流人口は、主にNAFICの附属施設である「オーベルジュ・ふれざんす桜井」の集客によるものですが、オープン当初は、知名度UPを目指し、食事の提供価格を通常よりも低価格にしたり、増席する等の取組を実施したことで、想定以上の集客数となりました。しかし、NAFIC開校後は、本来の目的であるNAFICの実践実習に注力し、実習に支障の無い範囲での集客としていることや、近年、全国的に災害が多いこと等が影響し、交流人口は減少傾向にあります。				

(注)NAFIC…奈良県立なら食と農の魅力創造国際大学校

関連する指標の分析

指標	進捗状況	基準値		実績値	進捗率(傾向)	目標値
NAFIC実践オーベルジュ棟「オーベルジュ・ふれざんす桜井」の利用客数(人)	実績値が基準値より3,325人減少しており、利用客増加に向けて、毎月定例会議を実施するなど、指定管理者と現状や課題等を情報共有しています。	13,370		10,045	▲527.8%	14,000
		H27(2015)	3,325人	R1(2019)	4/9年目	R6(2024)

主な取組指標の動き

NAFIC附属セミナーハウスの整備		
南部・東部の宿泊施設客室数(室)		
1,835	↗	2,113
H26(2014)	15.1%	H30(2018)

「NAFIC周辺賑わいづくり協議会」の支援		
南部・東部観光客数(人)		
20,661	↗	21,877
H26(2014)	5.9%	H30(2018)

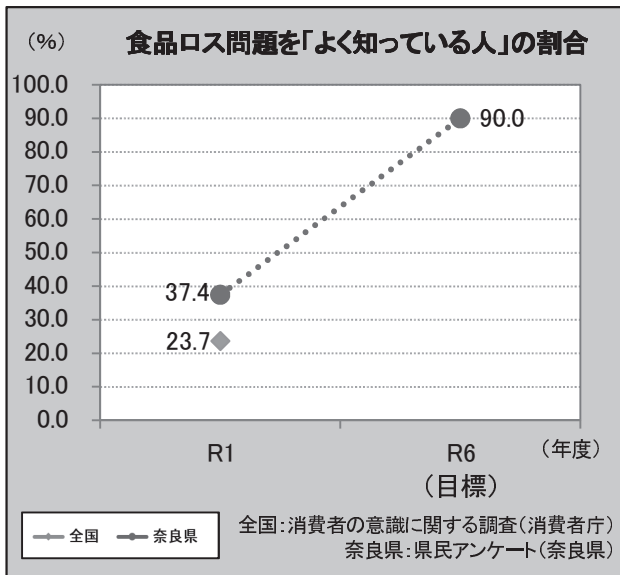
「目指す姿」達成に向けた成果・取組

NAFICの開校後、4年が経過し、これまでの課題に対応するため、令和元年度「NAFIC教育方針検討会議」を立ち上げ、カリキュラムの見直し等の検討を開始しました。

令和元年8月に設立した「NAFIC周辺賑わいづくり協議会」において、地元団体や桜井市等が参画し、農村体験の基礎調査や地域の散策ルート開発等のワークショップを開催しました。

坊	22. 農業・農地・農村・食と農の振興
テーマ	(127) 食品ロス削減への対応
目指す姿	令和6年度までに食品ロス問題を「よく知っている」県民の割合を90%にします。

CC(チーフコーディネーター)
(127) 食と農の振興部次長 原 実



食品ロス問題を「よく知っている人」の割合(%)			
指標	基準値	[Progress Line]	目標値
	37.4		90.0
	R1 (2019)		R6 (2024)
進捗状況	奈良県の食品ロス問題を「よく知っている人」の割合は、全国よりも高くなっていますが、目標達成に向けて、県民に向けた食品ロス問題啓発リーフレットの作成・配布や、一般消費者や食品事業者等を対象とした「奈良県食品ロス削減推進フォーラム」開催等により、食品ロス問題の周知を図りました。		

関連する指標の分析

指標	進捗状況	基準値	目標値
「食品ロス削減推進計画」を策定した市町村数(市町村)	令和2年度、県の計画を策定し、市町村の計画策定について定めるとともに、通知します。	0	39
		R1 (2019)	R7 (2025)

主な取組指標の動き

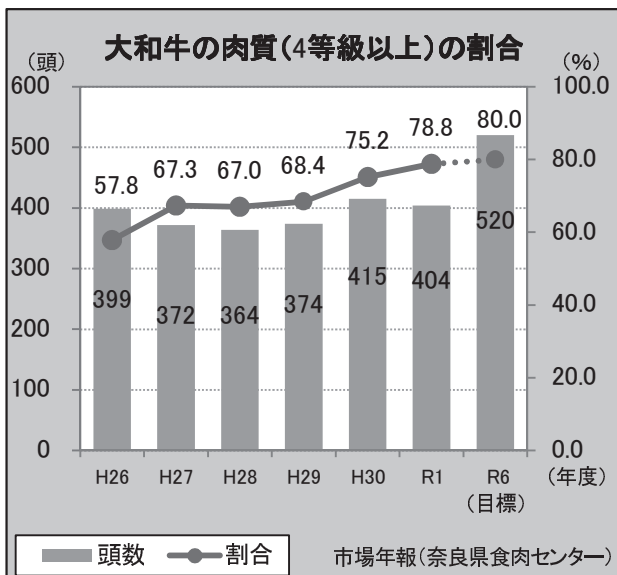
食品ロス削減に向けた啓発活動の推進		
啓発活動の実施市町村数(市町村)		
10	↗	16
H30 (2018)	60 %	R1 (2019)

「目指す姿」達成に向けた成果・取組

食品ロス削減の啓発のため、PRリーフレット「食品ロスを減らしましょう」を作成し、「奈良県食品ロス削減推進フォーラム」や「なら食に関するリスクコミュニケーション」等、食に関するイベントで配布しました。

坊	23. 畜産・水産業振興
テーマ	(128) 食肉畜産業の振興・食肉公社の運営
目指す姿	令和6年度までに大和牛の肉質(4等級以上)の割合を80%以上にします。

CC(チーフコーディネーター)
(128) 食と農の振興部 畜産課長 溝杭 和己



指標	大和牛の肉質(4等級以上)の割合(%)				
	基準値		実績値	進捗率(傾向)	目標値
	57.8	↗	78.8	94.6%	80.0
進捗状況	H26 (2014)	21 ポイント	R1 (2019)	$\frac{5}{10}$ 年目	R6 (2024)
	優良子牛導入の支援や品質によるブランド認証制度等による農家の生産意欲の向上より、大和牛の品質は年々向上し、出荷頭数にしろる肉質が4等級以上の割合は、令和元年度には78.8%になりました。進捗率は94.6%と目標達成まであと少しとなっていますが、引き続き、目標達成に向けた取り組みを継続していきます。				

関連する指標の分析

指標	進捗状況	基準値		実績値	進捗率(傾向)	目標値
大和牛生産頭数(頭)	子牛価格や飼料価格の高止まりによる生産コストの増加もあり、実績値は基準値から40頭減少し、513頭となっていますが、近年の大和牛生産頭数はほぼ横ばいです。	553	↘	513	▲16.2%	800
		H27 (2015)	40 頭	R1 (2019)	$\frac{4}{15}$ 年目	R12 (2030)

主な取組指標の動き

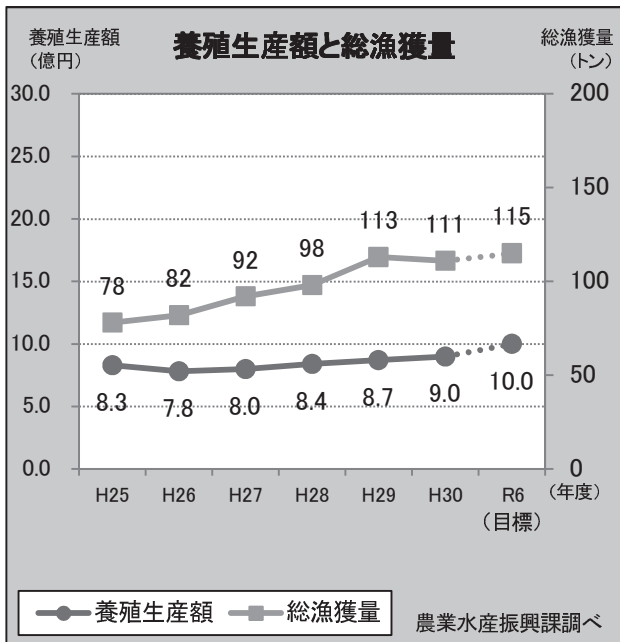
奈良県プレミアムセレクト 大和牛の安定生産の推進		
奈良県プレミアムセレクト 大和牛の生産(出荷)頭数(頭)		
14	↗	20
H28 (2016)	42.9 %	R1 (2019)

「目指す姿」達成に向けた成果・取組

良質の大和牛の増産を目的として、みつえ高原牧場内で畜産団地(肉用牛・乳用牛の生産拠点)の整備に向けた取組を進めています。令和元年度は、民間事業者の参入の可能性を検討し、みつえ高原牧場での畜産団地の整備方針を決定しました。

坊	23. 畜産・水産業振興
テーマ	(130) 内水産業の振興
目指す姿	令和6年度までに金魚やアマゴ等の養殖生産額を10億円にします。また、令和6年度までにアユやアマゴ等の総漁獲量を115トンにします。

CC(チーフコーディネーター)
(130) 食と農の振興部 農業水産振興課長 田中 良宏



指標	金魚やアマゴ等の養殖生産額(億円) アユやアマゴ等の総漁獲量(トン)				
	基準値		実績値	進捗率 (傾向)	目標値
養殖生産額	8.3	↗	9.0	41.2%	10
	H25 (2013)	0.7 億円	H30 (2018)	5 11 年目	R6 (2024)
総漁獲量	78	↗	111	89.2%	115
	H25 (2013)	33 トン	H30 (2018)	5 11 年目	R6 (2024)
進捗状況	養殖業の担い手育成のため、大学生を対象に金魚及びアマゴの養殖体験を実施しました。また養殖生産及び漁獲の安定を図るため、外来生物による食害の対策方法を養殖業者及び関係漁協へ普及・啓発しました。それにより近年、養殖生産額、総漁獲量ともに増加傾向です。				

関連する指標の分析

指標	進捗状況	基準値		実績値	進捗率 (傾向)	目標値
養殖業収獲量(トン)	平成26年まで減少傾向にありましたが平成27年以降、陸上養殖の開始等により、増加に転じています。	20	↗	22	50.0%	24
		H25 (2013)	2 トン	H30 (2018)	5 10 年目	R5 (2023)
遊漁承認証発行枚数(枚)	紀伊半島大水害等により、平成25年まで減少傾向にありましたが、平成30年には、漁場も回復し、増加しています。	24,357	↗	24,868	79.5%	25,000
		H25 (2013)	511 枚	H30 (2018)	5 10 年目	R5 (2023)

主な取組指標の動き

養殖業の担い手育成		
養殖業経営体数(経営体)		
63	↗	68
H25 (2013)	7.9 %	H30 (2018)

「目指す姿」達成に向けた成果・取組

金魚の輸出に必要な衛生証明書の発行を円滑に行うことで、金魚の販売を促進しました。

アユ釣り教室の開催により、新たに釣りを始める人を増やすことで、漁獲量の増加につなげました。

坊	22. 農業・農地・農村・食と農の振興	
テーマ	(124) 中央卸売市場の再整備	
CC(チーフコーディネーター)	(124)中央卸売市場再整備推進室長 前田 美保	
目指す姿	令和10年度までに地域に開かれた賑わいのある中央卸売市場を整備します。	進捗状況 「奈良県中央卸売市場再整備基本計画」(令和元年9月)を策定しました。また、市場エリア(B to B)の施設規模に関する市場事業者との協議を実施しました。さらに、市場を核としたまちづくりの検討を実施しました。

坊	22. 農業・農地・農村・食と農の振興	
テーマ	(126) 奈良県豊かな食と農の振興条例の制定	
CC(チーフコーディネーター)	(126)食と農の振興部次長 原 実	
目指す姿	令和2年度に食と農の一体的な振興を図る基本的な計画を策定し、具体的な施策を推進します。	進捗状況 「奈良県豊かな食と農の振興計画」の令和2年度策定に向け、内容の検討及び関係課との調整を行いました。

坊	23. 畜産・水産業振興	
テーマ	(129) みつえ高原牧場の整備	
CC(チーフコーディネーター)	(129)畜産課長 溝杭 和己	
目指す姿	令和4年度にみつえ高原牧場の整備工事に着手します。	進捗状況 畜産団地の整備方針を決定しました。また、事業参入希望農家(3戸)の意向確認をしています。

3. 次年度に向けた課題の明確化

22. 農業・農地・農村・食と農の振興
23. 畜産・水産業振興

- (122) 特定農業振興ゾーンの整備
- (123) 農地マネジメントの推進
- (124) 中央卸売市場の再整備
- (125) NAFIC教育の充実と周辺の整備
- (126) 奈良県豊かな食と農の振興条例の制定
- (127) 食品ロス削減への対応
- (128) 食肉畜産業の振興・食肉公社の運営
- (129) みつえ高原牧場の整備
- (130) 内水産業の振興

＜奈良県の持っている強み＞

- 1 農地の有効利用、農業生産性の向上に資するため、高収益作物等の農業振興をはかる地域として特定農業振興ゾーンを設定
- 2 農業基盤整備の実施により造成された優良農地で、柿、小菊、茶などの全国トップクラスの産地形成がなされている
- 3 歴史・観光資源、田園景観等の資源が豊富
- 4 「なら食と農の魅力創造国際大学校」の設置による「農に強い食の担い手」の育成体制の充実
- 5 古くから宇陀地域を中心に良質な和牛「大和牛」を生産しており、品質・認知度も向上してきている。
- 6 奈良県南部東部には清流が数多く存在
- 7 伝統ある金魚養殖

＜奈良県の抱えている弱み＞

- 8 小規模な兼業農家等が大半を占め、担い手の減少や高齢化が進展し、大規模産地に対抗するブランド力、生産力などの競争力が不足
- 9 圃場整備率が全国平均と比べて低く、農地の集約が進みにくいことや、耕作放棄地率が高く、農地の利用が不十分
- 10 兼業化、担い手の高齢化により、ため池等の農業水利施設の維持管理が困難となってきた
- 11 中央卸売市場の取扱高の減少
- 12 宿泊施設の施設数・客室数が少ない
- 13 食品ロス削減に向けた啓発活動実施市町村の割合が低い
- 14 養殖業者や漁協組合員及び釣り人の高齢化・減少

＜奈良県への追い風＞

- a 質の高い農産物への期待
- b 担い手への集積、高収益作物導入などの農業施策の推進
- c 農業用ため池の管理及び保全に関する法律の施行等による、ため池の整備や管理の推進
- d 「食品ロスの削減の推進に関する基本的な方針」(消費者庁)の制定
- e 県産食用魚の需要増加
- f 観光客の増加傾向

＜奈良県への向かい風＞

- g 全国的に高齢化し、担い手が不足
- h 新規就農のための農地確保が困難
- i 過疎化、高齢化による集落機能の低下
- j 人口減少・少子高齢による食料消費の減少
- k 県内飲食店数の減少
- l イベントの減少による金魚すくい用金魚の需要減少

＜強みで追い風を活かす課題＞

- [重要課題]** 優良農地での競争力強化のための、農地の整備や農業施設の更新(2,a,b)
- [重要課題]** NAFICを核とした周辺の賑わいづくり(3,f)
- [重要課題]** 大和牛の更なる高品質化と生産拡大(5,a)
- ・清流で育った美味しい県産食用魚の認知度向上(6,e)

＜弱みを踏まえ追い風を活かす課題＞

- [重要課題]** ため池等農業水利施設の維持管理の合理化(10,c)
- ・食品ロス削減推進計画の策定(13,d)
- ・養殖業の担い手育成確保(14,e)
- ・NAFIC附属セミナーハウスの活用(8,12,f)
- [重要課題]** 観光と連携した釣り客の誘客(14,f)

＜強みで向かい風を克服する課題＞

- [重要課題]** 特定農業振興ゾーンの設定による、高収益作物の産地形成(1,g,h,i)
- ・NAFICフットクリエイティブ学科の定員充足(4,k)
- ・観賞魚の高級品種の生産(7,l)

＜弱みを踏まえ向かい風に備える課題＞

- [重要課題]** 各市町村農業委員との連携強化による農地利用の合理化と農地中間管理事業を活用した農地マネジメントの推進(8,9,g,h)
- ・農村集落機能の低下を踏まえた、農地、農業用施設の維持(9,10,i)
- [重要課題]** 高度な市場機能と、華やかな賑わいを実現する中央卸売市場の再整備を実施(8,11,j,k)

4. これまでの評価や取組を踏まえた、強みや追い風を活かす課題の今後の取組方針

強みで追い風を活かす課題	今後の取組方針
優良農地での競争力強化のための、農地の整備や農業施設の更新(テーマ(122))	引き続き、農地の集積、区画の大規模化や、高収益作物への転換のための水利施設の整備や更新を実施することにより、優良農地を守り競争力の強化を図ります。
NAFICを核とした周辺の賑わいづくり(テーマ(125))	NAFICを多目的な会合や長期滞在などの総合機能を持った施設とするため、上段部にセミナーハウスの整備を進めており、令和2年度に着工、令和4年度供用開始する予定です。また、令和元年度に設立した「NAFIC周辺賑わいづくり協議会」と連携しながら、飛鳥・藤原宮跡等の観光資源を活かした賑わいづくりを創出します。更に、山の辺の道周辺地域等への波及効果により、賑わいづくりの更なる進展を目指します。
大和牛の更なる高品質化と生産拡大(テーマ(128)(129))	大和牛の品質は年々向上しており、それに伴い認知度も向上しています。今後もより良い肥育素牛(子牛)の導入を進めることで大和牛の品質を高め、奈良県プレミアムセレクトに代表される質の高い牛肉の増産に取り組めます。また、良質な肥育素牛増産のため、みつえ高原牧場内に畜産用地を造成し、大和牛の生産拠点の整備に向けた検討・調査を進めます。

弱みを踏まえ追い風を活かす課題	今後の取組方針
ため池等農業水利施設の維持管理の合理化(テーマ(123))	農業者の兼業化や高齢化により、ため池など農業水利施設の維持管理は困難となっているなか、ため池法により、ため池管理者に対して適正管理を行うよう定められるなど、防災・減災の観点からも適切な施設の管理が求められるようになりました。農村集落や農地の安心安全と維持管理の省力化を推進するため耐震調査、機能診断などのソフト対策や調査に基づく整備工事などのハード対策により、施設の長寿命化、維持管理の合理化を行います。
観光と連携した釣り客の誘客(テーマ(130))	河川漁業を代表するアユの釣り客増加を図るため、釣り教室の開催、健全なアユ稚魚の放流支援等を行っています。今後、旅館、温泉施設と連携し、これらの施設が釣り道具の貸出及び釣った魚の料理提供等を行うことにより、更なる釣り客の誘客を進めます。

強みで向かい風を克服する課題	今後の取組方針
特定農業振興ゾーンの設定による、高収益作物の産地形成(テーマ(122))	これまでに、五條市、川西町、田原本町、広陵町の1市3町に、合計6地区の特定農業振興ゾーンを設置してきました。これらの市町と連携し、それぞれの地域の特徴を踏まえた高収益作物への転換、担い手の確保及び農地の集積等を行うことで、高収益作物の産地形成を進めていきます。また意欲のある市町村、地域と協働し、新たな特定農業振興ゾーンを設定していきます。

5. これまでの評価や取組を踏まえた、弱みと向かい風を抱える課題の今後の取組方針

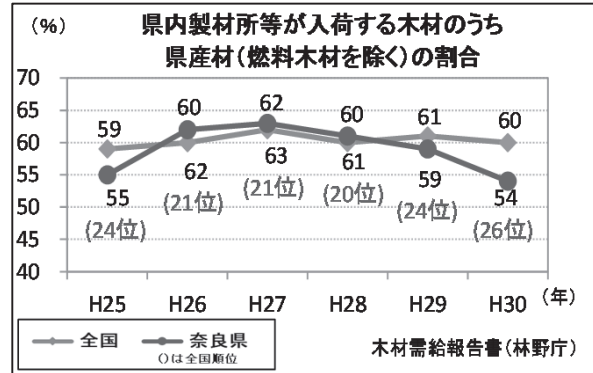
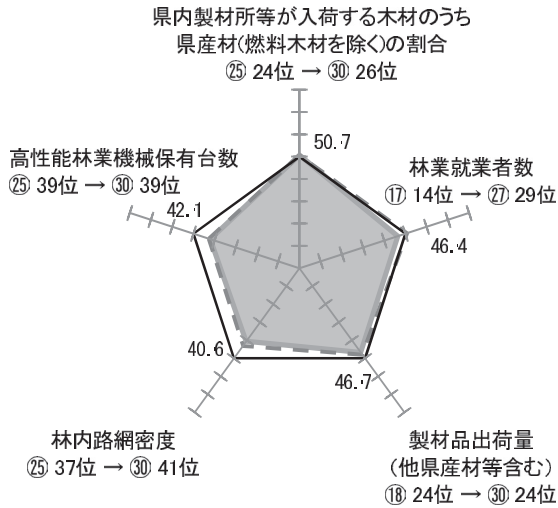
弱みを踏まえ向かい風に備える課題	今後の取組方針
各市町村農業委員との連携強化による農地利用の合理化と農地中間管理事業を活用した農地マネジメントの推進(テーマ(123))	各市町村農業委員との連携を強化し、耕作放棄地調査が実態に合うよう適切に実施し、重課措置の適用や山林化している農地を非農地として農地から除外します。また、土地改良区とも連携し、農地中間管理事業を活用して地域の担い手への農地の利用集積や、耕作放棄地再生など、農地の有効活用ができるよう農地マネジメントを推進します。
高度な市場機能と、華やかな賑わいを実現する中央卸売市場の再整備を実施(テーマ(124))	卸売機能(B to B)の効率化、高機能化に加え、賑わい創出機能(B to C)を整備し、華やかで賑わいのある複合拠点の整備を進めます。再整備の実施にあたり、市場施設・設備等の整備検討を行い、民間活力とノウハウを活かし、市場エリアの事業者公募を実施します。

24. 森林環境管理・林業振興

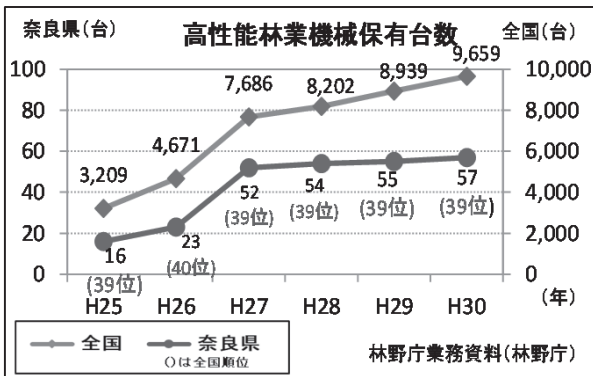
【担当部局】

水循環・森林・景観環境部

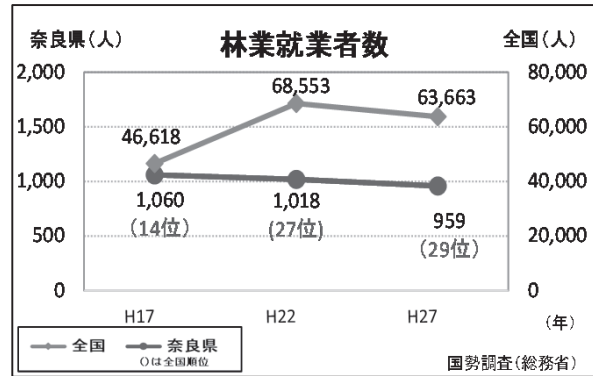
1. 現状分析



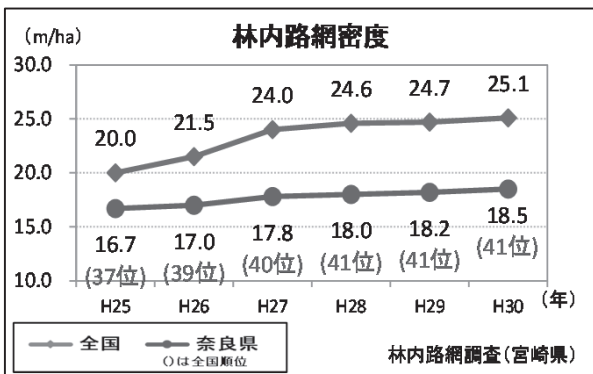
木材価格の低迷等により、県産材素材生産量が減少したため、県産材自給率は低下傾向にあります。



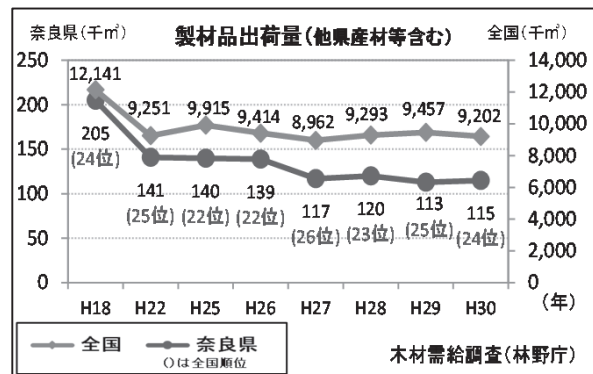
奈良県の高性能林業機械保有台数は、全国と比べて低位で推移していますが、徐々に増加傾向にあります。



林業就業者数は、奈良県では若年層の新規参入が進んでいないため、徐々に減少傾向にあります。



路網整備は着実に進んでいるものの、林内路網密度は全国と比べて低位にあり、差が徐々に拡大しています。

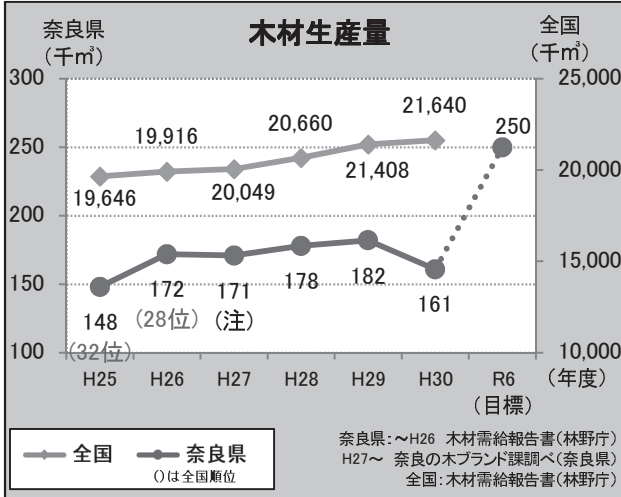


製材品出荷量(他県産材等含む)は、建築用材の出荷量の落ち込みにより、減少傾向にあります。

2. 各テーマの「目指す姿」達成に向けた進捗状況

坊	24. 森林環境管理・林業振興
テーマ	(134) 奈良の木ブランド戦略
目指す姿	令和6年度までに木材生産量を25万 m^3 にします。

CC(チーフコーディネーター)
(134) 水循環・森林・景観環境部 奈良の木ブランド課長 三浦 康生



(注) H27年度からは、県独自調査の数値を記載しているため、全国順位は記載していません

指標	木材生産量(千 m^3)				
	基準値		実績値	進捗率(傾向)	目標値
	148	↗	161	12.7%	250
進捗状況	H25 (2013)	13 千 m^3	H30 (2018)	5/11 年目	R6 (2024)
	平成27年度に奈良県林業・木材産業振興プランを策定し、A・B・C材全てを切り出す林業への転換を図る施策を推進したため、近年の木材生産量は増加傾向が続いていました。しかし、B材・C材の生産量は堅調に推移するなか、A材の生産量が伸びていないことから、平成30年度は前年度に比べ21千 m^3 減少し、進捗率は12.7%と伸び悩んでいます。				

関連する指標の分析

指標	進捗状況	基準値		実績値	進捗率(傾向)	目標値
公共事業や公共建築物での県産材使用量(千 m^3)	平成27年度以降、公共建築物の木造・木質化に対する国の補助金の補助率・採択要件が厳しくなったこともあり、平成30年の使用量は基準値から3千 m^3 に減少しています。	5	↘	3	▲100.0%	7
		H25 (2013)	2 千 m^3	H30 (2018)	5/7 年目	R2 (2020)

主な取組指標の動き

県産材の利用促進	奈良の木の魅力の情報発信	供給・加工・流通体制の構築
新設住宅着工戸数における木造率(%)	Facebook「奈良の木のこと」フォロワー数[累計](件)	大規模製材工場と川上との直接安定取引契約の締結[累計](m^3)
64	2,870	1,850
↗	↗	↗
69	6,362	12,761
H25 (2013)	H29 (2017)	H27 (2015)
5 ポイント	3,492 件	10,911 m^3
H30 (2018)	R1 (2019)	H30 (2018)

「目指す姿」達成に向けた成果・取組

令和元年度は、ベトナムや首都圏等で、県内企業とともにイベント・商談会・木材関連セミナーを実施し、奈良県産材をPRするとともに、木材の販路拡大に取り組む企業の支援を行いました。

公共建築物等への県産材の利用促進を目的に、行政・木材業界・建築業界によるセミナー・ワークショップを実施し、現状での課題と今後取り組むべき方向性について整理・共有しました。

坊	24. 森林環境管理・林業振興	
テーマ	(131) 新たな森林環境管理制度の構築	
	(132) 森林防災体制の充実	
	(133) 奈良県フォレスター制度の確立、フォレスターアカデミーの設置	
CC(チーフコーディネーター)	(131)、(133)森と人の共生推進室長 松田 繁樹	
	(132)森林整備課長 内田 亨	
目指す姿	令和6年度までに奈良県フォレスターアカデミー等で学んだ奈良県フォレスターを10名市町村に配置します。	進捗状況 「奈良県森林環境の維持向上により森林と人との恒久的な共生を図る条例」が令和2年4月1日より施行されました。今後は、奈良県フォレスターアカデミー等で学んだ奈良県フォレスターを市町村へ配置していきます。

坊	24. 森林環境管理・林業振興	
テーマ	(135) 奈良県産材の安定供給及び利用の促進	
CC(チーフコーディネーター)	(135)奈良の木ブランド課長 三浦 康生	
目指す姿	令和2年度に奈良県産材の安定供給と利用促進プランを策定し、具体的な施策を推進します。	進捗状況 「奈良県産材の安定供給および利用の促進に関する条例」が令和2年4月1日より施行されました。今後は、本条例の施策を実現するためにアクションプランを策定し、円滑かつ効率的な施策の遂行を図ります。

3. 次年度に向けた課題の明確化

24. 森林環境管理・林業振興

(131)新たな森林環境管理制度の構築
(132)森林防災体制の充実
(133)奈良県フォレスター制度の確立、フォレスターアカデミーの設置
(134)奈良の木ブランド戦略
(135)奈良県産材の安定供給及び利用の促進

<p style="text-align: center;">＜奈良県の持っている強み＞</p> <ol style="list-style-type: none"> 人工林1ha当たりの蓄積量が高く、かつ100年生以上の高齢級林分が多い等、森林資源は質、量ともに充実 密植多間伐の森林施業により年輪幅が狭く均一な木材が生産され、強度(ヤング率)が高く、健康・快適効果を科学的に検証 奈良型作業道の整備及び急峻な地域への架線集材施設に対する支援 奈良県独自の「奈良県森林環境税」を活用した施業実施が可能 スイス・リース林業教育センターとの森林環境管理に関する連携・交流 	<p style="text-align: center;">＜奈良県の抱えている弱み＞</p> <ol style="list-style-type: none"> 川上側(森林所有者、森林組合等)と川下側(丸太市場、木材協同組合、製材工場、工務店、設計士等)の連携が弱い 製材工場は小規模な工場の割合が高い(出力規模75kw未満の工場の割合…奈良県:76%、全国:60%) 植栽本数の多さ等から育林経費が高く、急峻な地形等から林内路網の整備や機械化が遅れ、木材生産の作業効率が悪い
---	---

＜奈良県への追い風＞

- 「公共建築物等における木材の利用の促進に関する法律」が成立(平成22年)
- 農林水産省の「森林・林業再生プラン」(平成21年)に基づく、路網の整備、森林施業の集約化及び必要な人材育成を軸とした効率的かつ安定的な林業経営の基盤づくりの推進
- 地球温暖化防止対策としての森林整備推進
- 再生可能エネルギーに対する関心の高まり
- 木造住宅生産体制強化を目的とした地域型住宅グリーン化事業(国交省)の実施
- 新設住宅木造率(全国)の上昇

＜奈良県への向かい風＞

- 全国的に高齢化し、担い手が不足
- 全国的な高級材の木材価格の低迷
- ニーズの変化による銘木市場の低迷

<p style="text-align: center;">＜強みで追い風を活かす課題＞</p> <p>[重要課題]木質バイオマスエネルギーの活用拡大(1,d) ・公共建築物への県産材利用の拡大(1,2,a) [重要課題]森林環境管理制度の推進(5,b,c,d) [重要課題]施業放置林の整備(4,c)</p>	<p style="text-align: center;">＜弱みを踏まえ追い風を活かす課題＞</p> <p>[重要課題]低コスト集約化施業による利用間伐の推進(8,b) ・林業振興のための基盤整備(山地災害の予防・復旧)(8,b) ・一般住宅での県産材利用拡大の促進(6,e,f)</p>
<p style="text-align: center;">＜強みで向かい風を克服する課題＞</p> <p>[重要課題]県産材の首都圏等への販路開拓(ブランド力の強化)(2,h,i) [重要課題]県産材を使用した家具等の職人育成(1,2,g,h,i) [重要課題]搬出間伐材等の素材生産拡大の推進(3,h) ・「奈良の木」の効果的な情報発信(1,2,h,i)</p>	<p style="text-align: center;">＜弱みを踏まえ向かい風に備える課題＞</p> <p>[重要課題]効率的なサプライチェーンの構築(6,7,h,i)</p>

4. これまでの評価や取組を踏まえた、強みや追い風を活かす課題の今後の取組方針

強みで追い風を活かす課題	今後の取組方針
木質バイオマスエネルギーの利活用の拡大(テーマ(134))	木質バイオマスエネルギーの原料木材の安定供給や、エネルギーの有効利用のもと、民間事業者による利用拡大とともに、小規模な木質バイオマスエネルギーの利用により、森林資源を地域内で持続的に循環させる仕組みを推進します。
森林環境管理制度の推進(テーマ(131),(133))	スイスの森林環境管理制度を参考に、森林の持つ4機能(森林資源生産・防災・生物多様性保全・レクリエーション)を発揮させるため、恒続林を中心とした新たな森林区分への誘導を行うとともに、地域の森林環境管理を総合的にマネジメントする奈良県フォレスター(県職員)を奈良県フォレスターアカデミーで養成のうえ、市町村に配置していきます。
施業放置林の整備(テーマ(132))	平成29年度末で依然として県内の環境保全林内に約23,000haの施業放置林が存在しており、県森林環境税第3期(平成28～令和2年度)については3,500haの間伐整備を成果目標としていますが、令和元年度末での実績が2,871haであることから、引き続き森林環境の改善のための強度間伐等を実施します。

弱みを踏まえ追い風を活かす課題	今後の取組方針
低コスト集約化施業による利用間伐の推進(テーマ(135))	木材生産コストを低減するため、まとまった施業区域において、奈良県の急峻な地形や地質にあった壊れにくい奈良型作業道の重点整備と林業機械の導入を支援し、A・B・C材全てを搬出し、効率的な利用間伐を引き続き実施していきます。

強みで向かい風を克服する課題	今後の取組方針
県産材の首都圏等への販路開拓(ブランド力の強化)(テーマ(134))	「奈良の木」のブランド力を強化するため、需要が多く見込まれる首都圏等でのPRイベントや商談会を展開してきました。この取り組みを引き続き実施するとともに、販路拡大アドバイザーを活用した首都圏建築関係者へのセールスや、新たな市場での商談会を実施します。また、民間企業等が行う海外への販路開拓を支援します。
県産材を使用した家具等職人育成(テーマ(134))	付加価値の高い家具・木工品の製造販売や販路開拓を促進するため、家具等職人の育成を支援してきました。この取り組みを引き続き実施し、県産木製品の生産基盤を強化することで、高品質な県産材(A材)の需要拡大を推進します。
搬出間伐材等の素材生産拡大の推進(テーマ(135))	A・B・C材全てを搬出し、効率的な搬出方法が実践できる見込みのある「儲かる林業の施業」が可能な森林を発掘し、これまでに約20,000㎡の搬出間伐を実施、今後はさらに施業の集約化を進め搬出間伐の拡大を推進します。

5. これまでの評価や取組を踏まえた、弱みと向かい風を抱える課題の今後の取組方針

弱みを踏まえ向かい風に備える課題	今後の取組方針
効率的なサプライチェーンの構築(テーマ(134))	木製品の供給において、消費者のニーズが製材事業者や林業事業者まで正確かつ速やかにフィードバックされない現状を解消します。ニーズを的確にとらえ、ジャストインタイムで必要量を安定的に供給する生産・流通・販売体制の構築を目指し、林業事業者・製材事業者・建築関係者間による情報共有や連携方法を検討します。